

北海道学力向上推進事業における 講演会を実施しました

去る12月17日（水）、本校第一体育館において、学力向上推進事業における講演会を3年生普通科（地学基礎履修者198名）を対象に実施しました。当日は数年に一度の猛吹雪が予報されており、臨時休校になるか心配されましたが、穏やかな天気となり予定通りの実施となりました。講演内容は「北海道の地震災害の実態と都市直下型地震・海溝型巨大地震の特徴と防災対策について」として、北海道大学大学院理学研究院



付属地震火山研究観測センターの勝俣 啓先生をお招きしお話しいただきました。



第一線の専門家のお話が聞けると言うことで生徒も楽しみにしておりました。内容は、まず1992年北海道南西沖地震の津波被害の状況や2003年十勝沖地震での長周期地震動による

苫小牧石油備蓄基地の火災などの状況が写真とともに紹介されました。次に都市直下型地震（1995年兵庫県南部地震）と巨大海溝型地震（2011年東北地方太平洋沖地震）の際の揺れの様子が映像とともに比較され、その特徴の違いと、それにもなう防災上の注意点が解説されました。高校生でも十分理解できるように、専門用語は少なめでわかりやすく、防災意識の再認識に十分役立った講演となりました。



以下 生徒の声（一部抜粋）

・地震の揺れの種類や特徴の違いを学習できました。江別は地震が少ない街だが常に災害に備えて生活しようと思いました。ありがとうございました。（3年男子）

・実際の震災の映像を見て東日本大震災の時、テレビで東北地方の状況を見て、とても怖くて悲しい気持ちになったのをあらためて思い出しました。自分自身いつそういうことが起こってもすぐに対応できるように親と話し合ったりしなければいけないと思いました。（3年女子）

・地震について授業で知っていたことも改めてよく知ることができました。地震の予知について、犬や猫が鳴くのは関係ないとおっしゃっていましたが、鳥が騒いで大群で飛び立っていくのは関係ないのでしょうか？機会があれば教えてください。（3年女子）